

太陽の家

今から23年前、子どもに障がいがある一組の夫婦と「肢体不自由児父母の会」の協力により、彼らのために、小さな作業所が建ちました。
その施設は、一人ひとりが輝いて生きるようにと「太陽の家」と名付けられました。
ここには、今日も太陽がさんと輝いています。



施設長の坂井千鶴子さん（前列中央）とスタッフの皆さん



ハイ、チーズ！／今日は、「福祉ふれあいの里 障害者のつどい」で日本昭和村へ出掛けました。県職員ボランティアの皆さんと一緒に・・・

市内蜂屋町の国道418号線沿いにある太陽の家には、現在11人が自宅から通っています。
この施設は、その障がいのあるわが子を、地域で生活させ、働くことを通して生きがいのある人生を過ごさせてやりたいという関係者の親心から建てられました。
その後、平成6年には、地球環境にやさしい生ごみ処理方法の一つである「EM（有用微生物群）ぼかし」の生産を開始し、JAめぐみのなどに販売を委託することにより、施設運営の安定化を図りました。
さらに13年には、小規模作業所として、県下で初めて社会福祉法人の認可を受け、法人施設になりました。
来春、現在の作業所の隣接地に、念願のグループホームが完成します。
一人でも多くの障がい者が自立し、社会参加できることを、関係者は待ち望んでいます。

ヒューマン

家族的な雰囲気大切にしたい



太陽の家 施設長 坂井千鶴子さん

当時、障がいのある子どもたちは、親元から離れた福祉施設でしか、教育が受けられませんでした。卒業後は、地域で生活をさせてやりたいと思うのは、当たり前だと思います。

開設以来、地域の人をはじめ多くの人の力を借りなければ、ここまでやってこられませんでした。私たちのような小規模の作業所を取り巻く環境は、補助金の減少などにより運営は大変厳しいです。でも、小規模作業所にしかない「家族的な雰囲気」を大切にしていきたいと思っています。

宿泊訓練施設「ニコニコハウス」



今夜の食事は、大好きなシチューです。みんなで、協力して作ります

太陽の家と同じ敷地内には、宿泊訓練施設「ニコニコハウス」があります。平成7年に開設されたこの施設は、通所者が宿泊することにより、その家族の心労の軽減を図るのがねらいでした。

夕食の買い物や調理など、日常生活と変わらない宿泊訓練をすることにより、少しずつですが彼らに、自立心が芽生えたようです。
男女それぞれが、週1回の割合で職員と一緒に宿泊します。

太陽の家の歩み

- 昭和 57 年（1982）
3 月 身体障害者作業所「太陽の家」設立
- 昭和 60 年（1985）
4 月 太陽の家運営委員会設立
- 平成 元 年（1989）
4 月 廃食油固形・練りせっけん作り始める
- 平成 3 年（1991）
10 月 福祉の店「サン・サンショップ」設立（手作りとりサイクルの店）
- 平成 6 年（1994）
2 月 EMぼかし作り始める
- 平成 13 年（2001）
6 月 社会福祉法人「太陽の会」設立

障害者小規模作業所

太陽の家

- 所在地 蜂屋町下蜂屋 2130-3
- 設 置 社会福祉法人太陽の会
- 運 営 同上
- 定 員 15 人
- 電話・FAX 26-7405



太陽の家入り口です。歴史が漂ってきました。